

子。ズ。ミ。チ。ヤ。ウ。長州。テ。ラ。ツ。バ。キ。播州。ヤ。ブ。ツ。バ。キ。東國。タ。マ。ツ。バ。キ。石見。カ。ハ。ツ。バ。キ。雲州。イ。ヌ。ツ。バ。キ。泉州。タ。ニ。ワ。タ。シ。肥前同。フ。ユ。ナ。リ。讚州。一名女楨品字

庭際ニ多ク栽へ或ハ籬トス、葉ハ楊桐葉ニ似テ兩對ス、厚クシテ光アリ、冬凋マズ、夏月枝梢ゴト

三四五寸ノ穗ヲ出シ、枝ヲ分チ白花ヲ開ク、大サ三分許リ、後圓實ヲ結ブ、鼠ノ矢ノ形ノ如シ、熟シ

テ色黒シ、故ニ俗ニ子ツミノフン京ト云、雲州ニテハ子ズミノコマクラト云フ、

〔紀伊續風土記 物産六上〕女貞ヤツバキ本草、和名抄比女都波木、俗に鼠モトノ木といふ、古名のものに、前條

一名多都乃岐と訓ずるは誤なり、此二名は接骨木の和名なり、又和名抄に接骨木を美夜都古木と訓ず、此説是なれども、太豆乃木の訓を、女貞の下へ入るは誤なり、又新撰字鏡に女貞な比

も、二物を混ぜり、○中略各郡山野に多し、

〔伊豆海鳥風土記 産物〕クサダミ。女貞ナルカ、夏花咲キ、實ハ九月ニ熟ス、此實ヲ絞ルニ清油タル、

忽チ白蠟トナル、夫食急ナルトキハ、麥粉ニ交テ糰トス、常ニハ國エ出シテ穀ト交易ス、又コノ木

ノ皮ヲ煎ジテ、島人ノ衣、魚網ナドヲ染ルニ赤色トナリ、最益アル木也、

〔夫木和歌抄 二十九〕ねずもち
かた山のをどろにまじるねずもちのひく人ありとたのむべきよか
民部卿爲家

〔大和本草 十二〕檀タマツバキ葉似枸杞而大ナリ、薄シ、秋冬ヲツ、花ハマユミノ如シ、木長大、是マユミノ別種

カ、若水云、葉似黑槐而紅花、

〔地錦抄 五〕玉つばき 葉もちのごとくにて丸し、色よし、

〔和漢三才圖會 八十四〕冬青 凍青 俗云末左木 言正青木略、俗用証字、又云玉豆波木、中

按、冬青其葉冬亦正青、光澤圓長而不尖、有輭鋸齒、夏開小白花、秋結子、生青熟紅、自裂、中有白子、插枝

易活、堪爲藩籬、長出翹楚、伐掬能茂盛、相傳云、用葉燒灰、酒服治金瘡及竹刺入肉者、但不知食其嫩芽、